
2週間のリスタート

セン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2週間のリストア

【Nコード】

N9734S

【作者名】

セン

【あらすじ】

起きたら病院だった。

自殺か他殺か事故か、記憶を失ってしまった主人公が記憶を取り戻すために周りと協力し合うが、最後は非情な現実が待っている。

目が覚めたときは病院のベッドだった。

辺り一面真っ白で、誰もいなくて静かな部屋。

段々意識がはつきりしてきて、いろんな思考が頭を過った。

（ここはどこっていうより何で病院にいるんだろう？）

（病院にいる前に何をしていた？）

（てか私誰？）

いわゆる記憶喪失ってやつになってしまったみたいだ。テレビか何かで聞いたことあるな、大きなショックを受けることによりそういったことが起ると、てか記憶喪失の人間がテレビなんて単語が出てくるのが不思議だ（笑）

そんなことを考えているうちにドアが開いた。

「あら東条さん気がつきました？」年配の看護師が声をかけた。

（東条？私の名前そなんだったんだ）

私は思いきつて口にした。「ここどこですか？てか何で病院何ですか？私東条って名前なんですか？」

一辺に口にして看護師のオバサンも困っている様子だ。

「何も覚えてないの？大した怪我はなさそうだけど、後で先生が来て検査するからちょっと待っててね。」

看護師がそそくさと出ていった。

しばらくすると先生が来てくれて脳や心電図等の検査をしてくれた。検査が終わったあと先生が

「先ほどうちの看護師に聞いたけど、君何も覚えてないって本当かな？」と聞いてきた。

「はい、名前も何でここにいるのかも全部わかりません。」

「駅のホームから落ちて電車と接触して通報があつて救急車に運ばれたんだけど、記憶がないんじゃないか自殺なのか他殺なのかそれともただの事故で誤つて落ちたかなんてわからないよね。とにかくこれだけ外傷が少なくて助かることはめつたにないよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9734s/>

2週間のリスタート

2011年10月9日00時49分発行